

## 第2回福岡空港調査連絡調整会議 議事概要

1 日時 平成15年11月10日(月) 13:45～15:05

2 場所 福岡国際会議場 5階 502会議室

### 3 出席者

#### (1)連絡調整会議委員

国土交通省九州地方整備局長	渡邊 茂樹
(代理出席 九州地方整備局副局長	梅木 勇二)
国土交通省大阪航空局長	岩見 宣治
(代理出席 大阪航空局飛行場部長	松本 清次)
福岡県副知事	武田 文男
福岡市助役	西 憲一郎

#### (2)幹事会

国土交通省九州地方整備局港湾空港部長	東 俊夫
国土交通省大阪航空局飛行場部長	松本 清次
福岡県企画振興部理事	田村明比古
福岡市総務企画局理事	中島 紹男

#### (3)本省航空局からの参加

国土交通省航空局飛行場部計画課専門官	木原 正智
--------------------	-------

### 4 次第

#### (1)開会

#### (2)議事

福岡空港の総合的な調査に係る情報提供及び意見収集のあり方について

基本的な考え方(案)について、事務局が説明した後、委員より質疑が行われた。次に、検討スケジュール(案)及び意見の募集(案)について、事務局が説明した後、委員より質疑がなされ、(案)に従って進めることが了承された。

福岡空港の総合的な調査について

平成16年度の調査の方向性(案)について、事務局が説明した後、委員より質疑が行われ、案に従って進めることが了承された。

その他

福岡空港調査委員会の設立と今後の予定について、事務局が説明した後、質疑が行われた。

#### (3)閉会

### 5 主な発言内容(順不同)

#### (1)福岡空港の総合的な調査に係る情報提供及び意見収集のあり方について

委員 この基本的な考え方(案)は中間報告的なもので、今後、内容を詰めていくというところでよいか。

事務局 今後、検討していく上での基本的な考え方が示されたという意味では中間報告的なものである。

委員 検討会の委員からはどのような議論があったのか。

事務局 委員からは様々な意見をいただいた。特に、今後の調査はこれまでの延長ではなく、新たなスタートであることが明確に分かるようにするべきとの意見を多くいただいた。

また、方向性を絞り込む際には一つの選択肢を示すだけでなく、複数の選択肢を示すべきという意見、P Iの実施主体等どこが責任を持って、どの役割を果たしていくのか明確にするため検討していこうという意見、空港のあり方は空港整備だけを考えるだけでなく、地域全体の戦略、ビジョンに絡ませて議論すべきという意見、それから、航空需要予測などについて、技術的に精緻であることだけでなく、市民等の感覚で分かりやすい、実感できるようなものであるべきという意見などがあった。

委員 問題意識で指摘されている市民等との認識の共有については、今までも行政、民間で努力し、進めてきた点を認識してもらいたい。

しかし、近年、とりわけ大型公共事業における透明性の確保、説明責任の遂行が強く求められているという状況から、新たにP I手法などがクローズアップされてきた。これからも十分に市民等の問題意識に留意し、一方、我々の問題意識にも理解を求めて、今まで以上に更に努力していかなければならないと考えている。

委員 資料P 3の検討の対象範囲の項の下から2行目に「施策の組合せ等の選択肢」という表現があるが、意味するところは何か。

事務局 この3つの方策については、比較的早く実施可能なものと、更に十分な検討を要するものがある。

その中で、現空港の有効活用を図りながら、他の方策を行うというような組み合わせが考えられることから、「施策の組み合わせなどの選択肢」という表現がなされているわけであるが、抜本的な方策を行う際にどれが優位かということである程度絞り込むことが考えられる。

委員 資料P 4の2行目の、これから進めていく総合的な調査は課題解決の出発点であるとの記述があるが、これまでの調査の進め方とどのような点で異なるのかを説明願いたい。

事務局 例えば、手法において、これまでは、説明会、シンポジウムなどを行うことのみであったが、今後、市民参加という点を重視して、資料P 7にあるように、オープンハウスなど新たな様々な手法の実施や、調査を公正に進めるための第三者機関の設置などを検討し、これまで以上の情報共有のやり方を採用していく点などが内容として含まれている。

委員 現実的に考えると、これらの手法全てをやるということではないと思うが、それについての議論はあったか。また、資料5 Pの全体プロセスの中のP Iプロセスは3回程度を考えているのか。

事務局 全てということではなく、それぞれの手法の特性や、時間を含めたコストも考慮して適切な手法を検討していくこととなる。P Iプロセスの図については、回数を示しているのではなく、節目節目でP Iをやる必要があることを示している。

委員 資料P 5の黒点の4つ目の3行目の「段階的に進めていく」ということの説明をお願いしたい。

事務局 結果が先にあって、それについて説明するというのでは、なかなか認識の共有が出来ない。そのため、早い時期から段階を踏んで、かつ基本的な論点から認識を共有しながら進めるということ、議論が逆戻りせずに着実に議論を進めていくという

ことである。

委員 市民等には色々な意見があり、資料P4にある「多種多様な意見を持つ市民等のニーズ、意見を収集し適切に反映できる手法」はなかなか難しいと思うが、議論はこれからか。

事務局 議論の中で、一部の意見だけで判断するのではなく、普段は声を上げないサイレントマジョリティの意見を汲み上げていくような手法が重要であるという意見があった。

委員 資料4Pの検討の基本方針には委員に異論はないと思うが、それ以降の「今後検討を深めるべき課題」について、更に検討会で議論がなされていくということで良いか。

事務局 この基本的な考え方で了解いただければ、この検討会での議論を更に年度末に向けて深めていきたい。

## (2) 福岡空港の総合的な調査について

委員 地域の調査は、福岡空港調査委員会を通じて、これから進められることになるが、国の調査の今の状況はどうか。

事務局 現在は、シンクタンク、コンサルタントに発注を行った段階である。調査内容などについて、十分協議しながら調査を進めていきたい。

委員 前回も要望したが、国と地域の調査の分担がお互いに深い関連を持っており、細部にわたる事項などは相互の連携を取っていくことが、調査の円滑な実施のために重要であることから、齟齬がないように調査を進めていって欲しい。

事務局 その問題意識は十分に持っている。国と地域とは大きく役割を分けてはいるが、密接に関係しており、情報交換、共通の意識を持って、情報を共有しながら調査を進めたい。

委員 調査の中で、地域の特性等を考慮した航空需要予測があるが、これは重要な論点である。市民等に理解してもらえるよう意見収集を含めて、出来るだけ早く実施してもらいたい。

事務局 その認識も同様である。実施の過程においても、地域の特性等を考慮して、市民等との共通の議論が出来るよう調査を進めたい。

## (3) その他

委員 まもなく設置される福岡空港調査委員会の今後の開催予定を聞きたい。

事務局 福岡空港調査委員会は年に数回開催したいが、調査項目も多岐にわたり、専門的な検討も必要なことから、調査委員会の委員と外部からの委員から構成する専門検討会の設置も検討したい。

委員 福岡空港調査委員会で地域の調査を行うこととなるが、調査内容の共有化の面から、国から調査委員会の審議の場に参加していただくことをお願いしたい。

事務局 オブザーバーとして、参加したいと考えている。